



山田こうじです！

市民の命の砦・市立病院の機能を守れ

公的病院9割赤字

新興感染症対応
かけがえのない役割

9月9日に開会された環境福祉委員会に「京都市立病院の今後の在り方検討について」報告がありました。

令和6年の決算は、純損益で14・4億円の赤字。

過去最大の赤字となった令和5年に続き2年連続となり、債務超過は免れましたが令和7年以降債務超過に陥ることが見込まれる深刻な事態との報告でした。

職員の頑張りで稼働率を向上し病院収益は1・3億円プラスになる反面、コロナ補助金、空床確保補助金などが無くなるなど肝心の公的支援が減少しマイナス



山田 こうじ 委員
(共産党 右京区)

4・7億円となりました。

京都市立病院の役割は政策医療の取り組みとして、新興感染症に常に即応できる体制を維持、救急患者の受け入れと適切な診療を実施、地域医療機関とのカン

ファレンスの実施等、地域の医療政策を担い、市民の命と健康を守る自治体病院としての役割を果たしてきました。また、感染症のみならず、救急・小児・周産期・災害・精神などの不採算・特殊部門に係る医療、民間病院では限界のある高度・先進医療の多くを公立病院が担っています。京都

市立病院も新型コロナウイルス感染者第一号を受け入るなど重要な役割を果たしました。

京都市は
公的役割を果たせ

公的病院としての京都市の役割が問われています。

物価高騰のなか医療機器も進化した高額となり、薬代等物件費が高騰、水光熱費も値上がりしています。

病院職員の給与は、人事委員会の

引き上げ勧告が見送られ2年連続据え置かれています。深刻な職員不足となり、病床の45床が休床となっています。

私は委員会質疑で「コロナ禍で経験したことは病床が不足し、入院できず自宅や施設で救える命が救えなかった痛苦の経験を生かさねばならない。市として直接支援が必要」だと質しました。

病床削減
ストッパー

ところが、京都市の運営費負担金・交付金も減少し現場の求めとは逆行しています。令和4年決算では1

8・7億円、令和5年16・7億円が令和6年は14・5億円に年々減少し、本市の役割が後退しています。

国は医療費を削減するため、赤字で苦しむ病院の足元を見て、病床を減らせば病床1床につき410万円を助成するとしています。

京都市は、休床している45床のうち10床について、国の病床数適正化支援事業を活用するとしています。

休床は看護師不足などで

やむを得ず休床となっているものです。災害や感染症などあらゆる事態を想定し、一定のゆとりを確保するうえでも病床を減らすのではなく、医療従事者の処遇を

「コンサルではなく
病院関係者の声を

改善し人員を確保し休床と化している病床を稼働し収益を増やすことこそ必要です。

「今後の在り方検討について」では、市立病院の現状、患者の動向、地域医療ニーズ、他の医療機関の状況などについてコンサルタントを活用して多額の費用が提案されています

京北病院の在り方検討でも同じ手法で、病院関係者や地域住民は置き去りにしたうえ、「人口減少のなか、患者が減っている」と診療所の廃止、急性期病床を地域急性期に転換するなどの方向が「京北病院在り方検討会」から示され、地域に不安が広がっています。

「市立病院の在り方」についてはコンサル丸投げ検討するのではなく病院関係者や地域住民の声を聴く必要があります。

まいとおきに

山田こうじです！

NO.342

今年も右京区役所サンサ右京1階ロビーで「第3回原爆写真展」が9月3日から10日まで開催され、盛況でした。

広島市立基町高校生による「原爆の絵」は被爆者の証言をもとに克明に描かれています。

想像を絶する過酷な被爆体験を聞きながら描いた高校生にとっては、とてもつらいことだったと思います。そして、貴重な経験だったと思います。被爆80年、戦後80年決して戦争を繰り返してはなりません。

憲法前文の「政府の行為によってふたたび戦争の惨禍が起こることがないようにすること」が戦後日本の原点です。

